

淺野氏出願芝浦  
埋立及運河浚渫

工事考查復命書

工學博士川上 浩二郎

工學社上書二

復命書

御下命ニヨリ東京市営芝浦埋立及び運河工事ヲ淺野  
總一郎氏出願ノ通リ民營トニテ施行スルノ利害得失ニ  
付キ考查研究セレ結果民營トニテ經營スル一方法タル  
株式會社ヲ組織スルニ當リ假令其株主ハ主トニテ運輸  
關係者即チ直接此事業ニ利害關係ヲ有スル人士中  
求ムモントシテモ其民營ヨリ生ズル利益が市営ニ要  
スル市債ノ利息ニ比シ却テ僅少ナルコトハ別紙理由書  
ノ通りナルヲ以テ從テ株式會社ノ組織ハ困難ナルベク  
然テバ願書ノ末項ニ示ス如ク淺野氏外ニ三ノ特志家  
ヨリヘ寧口國家奉仕ノ誠意ニヨルニ非ラザレバ經營シ

能ハザル次第ニ御座矣、所比特志事業家ノ努力ニ  
報スバキ防波堤代用ノ埋立増地ノ築造ハ今直チニ  
許可シ能ハザル根本問題、横ハルモノアルハ又別紙理  
由書ニ示ス如キ次第ニ御座矣間結局本主事ハ民營  
トニテ經營スルコトハ此際頗ル困難ノ儀ト被存矣ニ  
付キ茲ニ理由書ヲ添附シ此旨復命ニ及ビニ矣也

大正拾九年九月二十六日

工學博士 川上浩二郎

東京市長男爵後藤新平殿

發 命 書

理由書

淺野氏出願ノ要旨ハ芝浦埋立及ビ運河工事ヲ民營ト  
テ經營スルハ出資者ニ他ノ營利事業ニ比スレバ寧ロ其  
利益少キモノナレドモ一般市民ニ與フル利益ノ多大ナルト此  
事業ノ經營ニヨリ聊ク私家奉仕ノ仕務ヲ盡サントスル  
ノ誠意ナルヲ以テ之レガ努力ニ對スル報酬トニテ防波堤代  
用ノ埋立増地ノ經營ヲモ併セテ御許可相成リ度シト  
趣旨ニ御座矣而ニテ此等各工事ノ内容ハ實ニ左ノ如  
モノト相成申セ矣

第一種工事 本年七月二十五日港湾調査會ヲ通過

シタル工事ニシテ埋立工事ハ一号ニ号三号地ノ合計

面積二拾八萬四千余坪、干潮面以下二十五尺ノ水

能ハ計深ヲ有スル岸壁五百間、護岸板柵三千百十尙  
報ス。防砂堤千五百十間、假設防波堤壳千間、船溜及ビ  
運河浚渫土量七拾九萬立坪中三萬立坪ハ岩盤  
他ハ土砂ヲ浚渫シ其浚渫土砂ハ全部之ヲ埋立ニ  
使用スルモノトス而シテ淺野氏ハ之ヲ工費六百八拾  
萬円ヲ以テ二ヶ年間ニ竣功セシメントス。

第二種工事 本事ハ第一種工事ノ船溜ヲ保護ス  
ル為ニ市當局が設計シタル假設防波堤延長  
壳千間ニ代用スルニ淺野氏ハ新ニ月嶋ヲ起點ト  
ニテ旧第六、及第三砲台ニ至ル埋立地面積約四  
拾五萬六千坪ヲ増築シ船溜ニ面スル沿岸  
約壳千武百間ニ岸壁ヲ築造スル計畫ヲ

立タルモノニシテ其工費約壳千萬円トシ五ヶ年  
間ニ竣功セシメントス  
然ルニ第二種工事ハ叙上ノ如キ大工事ナルニ因セズ願書ニ  
頤レ不備ナル陳述ラナラリ即チ「将来ノ市ノ大計畫  
抵觸セサル程度ニ於テ聊々埋立地ヲ増加シ埋立地ヘ防  
波堤ノ代用トナリ從テ御計畫ノ防波堤ハ築造セザル  
設計ニシテ云々ト有之矣ノミニ御座矣」ドモ淺野氏ノ  
願意ハ結局第一種及び第二種工事ヲ工事費壳十六  
百八拾萬円ヲ以テ五ヶ年同ニ民官トシテ施工セントスル  
モノニ外ナラズ未然ニ斯ク轻易ニ記述シタル第二種工  
事ハ出願ノ主體タル第一種工事ヨリ遙ニ大ナル工事タ  
ルノミナラズ之レガ施工區域ハ市當局が将来ノ大計畫

ヲ立案スルタメ日下其地貯ノ調査研究中ニ属スル場所ニシテ從テ市當局ハ其船溜ニ沿ヒタル防波堤ハ假設工事トシテ設計レ将来ノ大計畫ニ抵觸セザン用意ヲ急ラザルモノニ御座矣然ニ今之レガ根本ノ調査ヲ終決スルニ先チ済野氏出願ノ第二種工事ヲ施行スルトセハ將來ノ大計畫ニ對レ此際既ニ其一部ニ決定的運命ヲ與フンモノナルヲ以テ技術上此防波堤ハ代用タル埋立増地ハ其根本的調査研究ノ完結ヲ告グル近ハ假設物ノ外一切築造ヲ許スベキモノニ御座ナク即ナ此際取急キ詮議スルヲ許サル事情ノモノト相認ム矣ラ以テ不肖人第一種ノ工事即ナ本年七月二十五日港湾調査會ヲ通過シタル市営ノ芝浦埋立及ビ運河工事ニ就テノミ

之レガ市営ト民営トノ利害得失ニ付キ調査研究ヲシ第二種工事ハ全ク他日ニ譲リ申矣  
次ニ市當局ガ第一種工事ヲ工事費、金六百八拾萬円ニテ五ヶ年間ニ竣工セシメントスルノ計畫ヲ立てタルハ工事施行ニ要スル設備費ヲ最少限度タラシメントノ用意ト且ツハ目下ノ經濟界ニ於ケル一般状況ヨリ該工事ヲ二ヶ年内ニ急設スルヲ必要ト認メザルトノニケノ理由ニヨリ其期間及ビ工費ヲ算出シタルモノニシテ若シ之レラニヶ年間ニ竣工セシムニ必要アルニ於テハ今日ノ進歩シタル技術ト發達シタル機械力トラシテセバ固ヨリノ不可能ニアラシモノナリト雖ドモ工費ハ施工期間ヲ短縮スル程度ニ応ジテ設備増大ヲ要スル結果トシテ必ず増加セザンダカズ

即チ不肖、判定ニヨレバ第一種、工事施行期五ヶ年ヲ  
ニヶ年トナスニハ六百八拾萬圓ノ工費ハ八百八拾萬圓ニ増  
加セザルベカラズ而シテ假令八百八拾萬圓ノ工事費ヲ以  
テスルモニヶ年間ニ第一種工事ヲ完成スルコト、頗ル脣  
険的タルヲ免レザルヲ以テ思慮アル技術者ノ株ラザル  
所ニ御座矣、即チ工事費ニ何等ノ制限ヲ附セザル場  
合ニ於テモ該工事ヲ竣成スルニ三ヶ年ノ期間ヲ見込  
シテ、稳當ノ考案ト認メ矣、而シテ斯ノ工期ヲ三年  
トナス場合ニ於テモ浚渫船其他ノ設備増加及び其修  
繕費トシテ五ヶ年ノ工期ノ場合ニ比シ工事費七百萬  
圓ヲ増加スルヲ要ス、然ニ額書ニハ單ニ工事期間ノミ  
ヲニヶ年ニ短縮シ工費ヲ六百八十萬圓ノ儘トナセサレ

ノ増額ヲモ見シマザルハ技術上決シテ適當ナル計畫ト認メ  
得サルノミナラズ之ヲ實地ニ考フルニ現ニ津野氏ノ所有セ  
ラルノ浚渫船ハ埋立地ニ近キ海底ノ浚渫ニ適スルモ埋立地ヨリ  
遠距離ニ在ル浚渫船ニハ使用シ能ハザル種類ノモノタルノミナ  
ラズ第一種工事ノ埋立地前面ノ海底ハ岩盤ナルヲ以テ先ツ  
碎岩機ヲ使用シテ之ヲ破碎シテ後初メテ浚渫シ得ヘモチル此  
場合ニハ津野氏ノ所有セラルノ浚渫船ハ不適當ノ種類ニ属  
ス況シヤ運河ノ浚渫ニ至ツテハ埋立地ヲ距シ遠ク三浬ノ沖  
合ニ至ル場合アルヲ以テ津野氏ノ所有セラルノ浚渫船  
單ニ本工事ノ埋立ニシテ使用シ浚渫工事ニハ之ニ適當  
他シタラ種美ノ浚渫船及び之隣屬スル船舶ヲ購入又借  
入ノ方法ニヨリ新ニ設備セザルベカラズ岸壁工築造

ニ於テモ亦之レガ施工期限ヲ短縮スルタメニハ自然設備  
ヲ増加セザルベカラズ然レドモ此等ノ増加シタル設備ハ工  
事完成ノ既ニ於テハ相當價格ヲ以テ賣却シ得ルテ  
以テ其原費ノ約半額即ナ五拾萬圓ハ償却シ得  
ルモノト相成リ申シ矣

更ニ事施行上ノ實際問題トニテ市ハ本年度ヨリ  
本工事ヲ施行シ大正十五年度即ナ大正十六年三月  
未既ニ本工事ヲ完成スルノ豫定ナルモ本年度ハ既ニ  
四月ヨリノ九月ニ至ル半ケ年ラ市會及び港湾調查會  
其他ノ制規ノ手續ヲ經由スル爲メニ空費シタリノ然  
レドモ不日許可命令ノ到達ト共ニ直チニ工事ニ着手  
キシ得ルノ状況ニ在ルヲ以テ結局市ハ第一種工事ヲ

年別	年度別	市	官	民	官	橋	要
第一年	大正十一年度上半期	示ス	ハ空費ノ期間ヲ	示ス	ハ空費ノ期間ヲ	示ス	ハ空費ノ期間ヲ
第二年	大正十二年度	示ス	ハ空費ノ期間ヲ	示ス	ハ空費ノ期間ヲ	示ス	ハ空費ノ期間ヲ
第三年	大正十三年度	示ス	ハ空費ノ期間ヲ	示ス	ハ空費ノ期間ヲ	示ス	ハ空費ノ期間ヲ

### 第一圖 工事年限比較圖

年 别

年 度 别

市

官

民

官

橋

要

萬四年

大正十四年度

民官竣功

第五年 大正十五年度

市官發功

即チ市宮ト民宮トノ工事竣工遲速ノ問題、民宮ハ  
市宮ニ比レ僅力ニ一ヶ年迅速ニ竣工シ得ルモノニ御座矣  
從テ此一ヶ年間ニ運河利用ノ船運貨、貳百萬円ヘ惟  
民宮ニヨリノ利得ヲ生ズルコトト相成ヌ矣、然ルニ市宮ヘ其工  
事費、六百八拾萬円ニテ竣功シ得ルモ民宮ヘ工事期  
間ヲ短縮スルノ結果工事費ハ増加シテ七百八拾萬円  
トナル理由ハ既ニ叙述セし所ニ御座矣、依テ民宮ノ  
工費ヲ七百八拾萬円トシ工事期間ヲ三ヶ年ト改メ  
タル結果民宮ト市宮トガ如何ナル利害得失ヲ市  
民ニ及ボスベキカヨ比較セラム、スルヲ要スルト外相成而冲程比較ノ條件ハ

津野氏ノ指示セラレタルモノ、全部ヲ其儘採用シテ算  
出スレバ左ノ如キ結果ト相成申矣

市営芝浦埋立及び運河工事

一、工事費總額六百八拾萬圓

一竣工年數五ヶ年

一工事費小可作三月三十日年八分ノ利息ヲ加算スレバ左ノ如ヒ

前年過年事費一三六〇〇元

四三

五

計

O

大ベツコ

一八一六八六三

八六一六八六三

埋立地面積二割當

一、埠立完成後埠立地約三千萬坪，內六萬坪為鐵道省營。  
二、三、四、五十九

埋立實費三千四三元，他全部左表，如賣却之其

代金ヲ以テ右工事ヲ償却スルコト左ノ如シ

卷之三

年次	坪數	埋立地 單價 金額	賣却代 元金 利息	年八 分	元金償却 元金殘 款

要

元金價却

元金殘

四  
稿

要

一即チ埋立竣工後十五年ニテ運河ハ無代トナルモ埋立費  
八金額實却スレバ厚ヌヒテ六萬五千日ノ實印費ナシ

民宮芝浦埋立及ビ運河工事

工事ニ要スル資本金七百八十萬円ヲ株式組織トシテ最初ヨリ最終迄年五万ノ利息ヲ配當スルコト

一工事竣工年數ヲ満三年トシ竣工後埋立總坪數  
三十萬坪ノ内六萬坪ヲ市ニ埋立實費一坪三十四三分  
賣却乙其他一二拾四萬坪ハ左表ノ如ノ賣却處分  
ラナレテ會社ヲ解散スルコト

運河ノ無償ヲ以テ市へ提供スルコト

市宮ニ比シ竣功期間二年早キヲ以テ解損失一年  
今即ナ二百萬円ノ損失ヲ放フコトヲ得

一、新増加シタル百萬円ノ設備ハ工事竣工後五拾萬  
円ニテ賣却シ工事費ノ償却ニ充當ス

一株主ハ主トシテ運輸業者即チ本工事ニ直接ノ利害ヲ有スルモノヨリ募力集ニ年五万ノ配當ヲ承諾シタルモノトシテ算出セシモ差レ市債同様ニ年八万ノ利息ヲ配當ニ見込ムトキハ株主ハ市債ノ代リニ株式募力集ニ応じタル爲メ號局最終迄ニ四百貳拾壹萬四ノ配當ヲ換スルコトナル

## 結論

以上市宮ト民宮トノニ表ヲ對照スレバ市宮ハ竣工後十五ヶ年ニシテ工事費ノ償却未濟額六萬五千圓ヲ残スニ止マルモ民宮ニ在テハ工事費ノ償却未濟額

拾貳萬貳千余円ト株式トニ市債トノ配當差額四

百貳拾壹萬円トハ全然市民ノ負担スベキ損失ニシ

テ民宮ニヨリ得ル利益ハ解損失ヲ救フベキ貳百万

円及ビ増加設備賣却代金五拾萬円ニ過ギサルヲ以

テ差引百八拾萬円ハ本事業ヲ民宮トスル爲メ

ニ市宮ニ比シ東京市民が負担スベキ損失ヲ生ジタル

結果トナルヲ以テ結局本事業ノ民宮ハ不利益

ナリトノ結論ニ到達スルモノタリ

以上技術上ノ利害關係ノ外市宮ヲ民宮タラシムルニハ幾多ノ複雜ナル關係ヲ各方面ニ及ボスヤ明ナリト雖ドモ不肯門外漢ノ窺知スル所ニ非ラザルヲ以テ全然之レヲ除外シテ以テ本研究ノ終リトナス